

福本和夫 思想の再解釈

－「福本イズム」から「日本ルネッサンス史論」へ

目次

まえがき

序章 「福本イズム」の描かれ方

第1章 マラトとピッピの笛

－出生から大学卒業まで（1894－1920）

- 1 故郷－倉吉中学校卒業まで
- 2 上京－第一高等学校・東京帝国大学時代

第2章 パリの下宿に籠る

－就職、留学（1920－1924）

第3章 サア^{かえ}販^{かえ}ろう、販^{かえ}って戦おう

－帰国、「福本イズム」の萌芽（1924－1926）

- 1 蔵書目録と香取丸
- 2 ルビコン川の此岸で

第4章 福本思想の周辺－日本の社会情勢と右翼思想

- 1 1921年～1928年の日本をめぐる社会情勢
- 2 右翼思想－北一輝と権藤成卿を例にして

第5章 初期3部作を読む－「福本イズム」の誕生

- 1 マルクス主義の新しい教科書
－『社会の構成並に变革の過程』（1926年）
- 2 「プラン問題」の提起
－『経済学批判の方法論－『資本論』の方法論的研究－』（1926年）
- 3 組織論としての「分離結合論」
－『無産階級の方向転換』（1926年）

第6章 ルビコン川を渡る（1926）

－政治活動の開始と日本共産党再建

第7章 福本イズムの失墜（1927）

—ソ連共産党内の権力闘争と「27テーゼ」

第8章 のぞき窓（1928—1942）

—3. 15事件と獄中生活

- 1 検挙
- 2 福本イズムを形成した論文群
- 3 下獄—「昭和の大獄」、32テーゼ、擬装転向
- 4 獄中生活

第9章 「日本ルネッサンス史論」への道

（1942—1967）

- 1 17年ぶりの帰郷—福本逸子の回想
- 2 民俗学を超えて—柳田國男、橋浦泰雄との交流
- 3 日本捕鯨史話と葛飾北斎論
- 4 統一協議会（分派活動）と農林業論の踏査・研究—自主性・人間性の回復をめざして

第10章 「日本ルネッサンス史論」の完成

（1967—1969）

- 1 何が書いてあるのか（各章タイトル）
- 2 何のために書いたのか—ルネッサンス史論の部分史としてのマニフェクチュア史論
- 3 どのように読まれたのか
- 4 具体的な内容はどのようなものか

第11章 「日本ルネッサンス史論」以降—晩年の福本

（1970—1983）

- 1 毛沢東論
- 2 革命回想—福本は何を目指していたのか
- 3 日本産業技術史と幸田露伴
- 4 フクロウ、書、辞書
- 5 生活

あとがき

略年譜

著作一覧

参考・引用文献